

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3071201390		
法人名	社会福祉法人 皆楽園		
事業所名	グループホーム なごみ ユニット1		
所在地	和歌山県岩出市水栖644-1		
自己評価作成日	平成24年1月15日	評価結果市町村受理日	平成24年4月16日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=3071201390&SCD=320&PCD=30
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル
訪問調査日	平成24年2月13日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

認知症の人の不安や混乱が軽減され、その人らしい生活、その人のペースに合わせた支援を心掛け、職員が話し合い取り組んでいます。又、季節を感じて頂けるように、菜園での野菜作りを利用者様と一緒に頑張っています。気分転換や景色の移り変わりを楽しんで頂けるように、ドライブにも出かけています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当該ホームは新興住宅地と田園に囲まれた一角に位置し、「地域の中で生き生きと共に笑顔で暮らす」と理念に謳い、「自分だったら」「親だったら」との思いを込めて日々のケアを心がけています。中庭のウッドデッキでは日向ぼっこや気候の良い時期にはバーベキュー、夏祭りには屋台を出し有効的に利用しています。行事は2ユニットの良さを生かし合同で取り組み協力することで盛り上がりを見せ利用者からも喜ばれています。裏庭では季節の野菜作りに取り組み、水やり、収穫、秋には芋掘りを楽しんでいます。フロアには地域の方から頂いた雛人形が飾られ、畳の掘りごたつで洗濯物をたたんで過したり、リビングで食事の支度や後片付けなど出来ることに携わってもらいながら家庭的な雰囲気の中で利用者のペースを大切に生活を支援しているホームです。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	利用者が地域の中でその人らしく安心して暮らせる事を重点にした理念をスタッフ全員が見える所に掲示し、ミーティング時に話し合っている。	法人の理念を基にホーム独自の理念を作っています。「利用者が地域の中で生き生きと安心した暮らしが出来る様」との願いを込められた理念は、ホールや職員トイレ等に掲示し、理念を意識し日々のケアの実践に繋げています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の溝掃除や地元の小、中学校の見学や体験学習の受け入れなど地域の方々と交流に努めている	自治会に加入しており、地域の溝掃除等にも積極的に参加しています。小中学生の見学や体験学習の受け入れやボランティア、慰問等もあり地域との交流を大切にしています。また散歩やホームの裏庭に出かけた時は、近隣の方と挨拶を交わしています。近所の方や友人などの来訪があります。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を定期的に行い、認知症の方への理解や支援方法などを話し合い情報交換をしている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業所の活動状況やご利用者様の状況報告を行い、参加された方の助言や意見を聞き、サービスの向上に活かしている。	運営推進会議は市職員、地域包括支援センター職員、区長、副区長、民生委員、家族代表等が参加され2カ月に1回開催されています。ホームの状況や行事、研修等について報告しています。また、災害について話し合い意見交換や提案が活発に行われています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議には毎回必ず出席頂き良く理解して下さい、機会がある毎に相談させて頂いています	権利擁護の相談等、市役所へ気軽に出向く事で担当の市職員とは信頼関係も築かれています。相互が頻繁に行き来しているため、ホームの実情や相談事も実直に対応してもらえ連携が図れています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ミーティング時にケアについて振り返り身体拘束を行っていないか話し合い、身体拘束をしないケアの実践につとめている。玄関の施錠も出来るだけしないように努めている	玄関は7時から19時半まで開錠しています。見守りが不十分になる時は施錠することもあります。出たい時は一緒に出かける様に支援しています。研修やミーティングで話し合い、現場のケアの中でも拘束に繋がる不適切な言葉を使っていないかを都度話し合っています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者の虐待防止や、身体拘束に関するマニュアルを作成し周知徹底を図っており、法人内研修を行い、学習する機会を設けている		

グループホームなごみ(ユニット1)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在利用されている利用者がおられ、制度についても理解している又機会ある毎に職員に説明して理解と了解を頂いている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に重要事項説明書をもとに、医療や退居の関する事項など、事業所対応可能な範囲について説明し、理解と了承を得ている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の要望や意見を聞き、利用者本位のケアに努め、又ご家族が来居された時に要望などを聞くようにしている	面会時にホームや利用者の状況を報告し、意見や要望を聞いています。また年1回の懇親会で交流を図ることにより信頼関係を深め、言いやすい雰囲気づくりに努めています。出された意見や要望等を受け、速やかに対応し利用者本位のケアに繋がっています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティング以外にも機会がある毎に職員の意見を聞くようにしており又、日常のコミュニケーションを図る様に心掛けている	毎日のミーティングや月1回のケース会議でも活発な意見が出されています。また日頃から昼休み等、時間がとれば意見交換をし職員の意見や要望を聞き、職員の気づきを大切に取り入れ運営に反映しています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課を採用しその中で向上心が持てるような環境整備に努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部評価や法人研修に職員全員が参加出来る機会を作るように努めている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県の密着型サービスネットに加盟しており研修で交流を持ちサービスや質の向上に取り組んでいる		

グループホームなごみ(ユニット1)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面接で生活状況を把握し、本人の悩みや不安を十分に聴く機会を作り安心して生活できるよう努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の思いを十分理解し、事業所の対応出来る範囲について十分話し合える時間を作るよう努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族の求めるものを十分理解した上で必要とされる支援を見極めその時まず必要なサービスを提供するよう努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人と一緒に調理や洗濯物を干したり、畳んだりしながらコミュニケーションを図っている。その中から本人に色々教えて頂く事のあり、ともに支え合う関係作りを築いている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の思いを十分理解した上で本人を支援していく為に本人の日々の暮らしの中での築きや出来事を的確に伝え、情報を共有し密な連絡を取るよう努めている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居前のかかりつけ医を受診したりご家族や馴染みの方が気軽に面会して頂けるよう支援している又、ドライブなどで馴染みの場所に出掛けたりしている	昔からの行きつけの美容室や馴染みの場所へのドライブは職員が支援しています。お盆や彼岸の墓参り、身内の葬儀は家族と一緒に出かけます。また正月には自宅に外出したり、一泊旅行も家族の協力を得ながら、人や場所とのつながりの継続を支援しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々の相談にのったり皆で過ごす時間や気の合うもの同士過ごせるよう支援している又、一緒に家事仕事をするなどともに暮らせる関係作りを築いている		

グループホームなごみ(ユニット1)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の事業所に移られた方に対してこちらから遊びに行く等関係を断ち切らないように努めている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎日の暮らしの中で話しや様子を見て意見や思いに耳を傾ける様努力している	センター方式のアセスメント様式を活用しながら生活歴や好み、本人や家族の思いや意向の把握に努めています。日々の関わりの中で言動や表情、行動を観察し、思いを汲み取るように職員間で話し合い、試行錯誤しながら本人本位に検討しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式の活用し、ご本人に話を聞いたりご家族の方の来居時にも話を聞くなどし、把握に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の生活リズムや行動、言動などからその人の状態を把握するように努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族の思いを十分理解した上で本人を支援していく為に本人の日々の暮らしの中での気づきや出来事を的確に伝え、情報を共有し密な連絡を取るよう努めている	本人や家族の希望を反映した介護計画を作成しています。毎月のケース会議でモニタリングを行い、3か月に1回、または状況に変化があればその都度見直ししています。また主治医の意見も介護計画に反映しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	一日の流れや生活状況を作成し、食事量、排泄睡眠状況を把握し言動や気づきを記録している		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人ご家族の状況に応じて通院、買い物、散髪などを支援を行っている		

グループホームなごみ(ユニット1)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	行政、民生委員、消防、学校などと連携を保ち必要に応じて病院や他の事業所のケアマネージャと連携を図っている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	多くの利用者は、入居前よりのかかりつけ医を継続されており、ご本人やご家族の希望を伺い定期受診やその他の状況に応じてかかりつけ医と相談しながら受診している	入居時にかかりつけ医の継続が出来る事を説明しています。ほとんどの利用者は今までのかかりつけ医を希望し受診は家族が対応しています。家族が対応できない場合は職員が同行したり必要に応じて往診を受けることもあります。緊急時のかかりつけ医との連携を図り適切に対応しています。また希望時、歯科の往診もあります。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	必要に応じて法人内の看護師に相談している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご本人の事業所での状況をご家族と共に医療機関に提供している又職員が、頻繁に見舞うようにしご家族や医師と情報交換し速やかに退院できるように支援している		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご本人やご家族の希望を聞き、ご家族や医師と連携を図りながら事業所が対応できる最善のケア支援が出来るよう努めている	重度化や看取り指針については契約時に説明し、重度化された時には早い段階から話し合っています。医療行為が必要となった場合は対応できないこともありますが、状況の変化のたびに何度も話し合い、利用者や家族の思いを大切にしながら出来る限り支援したいと考えています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	研修会に参加している又、法人の「ケアワークの基本」マニュアルにて応急手当や事故発生時の対応について理解している。マニュアルを整備し、夜勤時の緊急対応について周知徹底を図っている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防の協力により利用者と共に避難訓練を実施し避難経路の確認、消化器の使い方も訓練している	避難訓練は昼夜を想定して年2回実施しています。そのうち1回は消防署の立ち会いで消火器の使用方法や避難場所、避難誘導の方法を訓練しています。運営推進会議では地震等の災害を議題に挙げ話し合っています。	

グループホームなごみ(ユニット1)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの状況に合わせてプライバシーを損ね無いよう声掛け、誘導し介助させてもらっている	一人ひとりの尊厳を守りプライバシーを損ねないケアを心がけています。排泄時はトイレとは言わずさりげない声かけで誘導をしたり、着脱時はバスタオルを掛ける等、恥ずかしい気持ちを和らげるように努め工夫しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者の個々の思いをくみ取り、職員の考えを押しつけず自己決定できるよう努める		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご利用者のペースを尊重し出来る限り個別性のある支援をしている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご利用者の個々の生活習慣に合わせた身だしなみやおしゃれをして頂けるよう支援している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	裏庭にて利用者と一緒に野菜を植えその食材を活用し、調理や下ごしらえ等職員と一緒に出来る事をしている	食事の盛り付けや下膳等、利用者はできる事に携わってもらっています。職員は同じテーブルで同じ物を食べ和やかな食事の雰囲気大切にしています。献立はその日の食材をみて利用者と一緒に考え、収穫した野菜を利用します。誕生日や行事食を工夫して食事が楽しみとなるよう支援しています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分摂取の状況を把握し食事内容など定期的に管理栄養士にアドバイスを受けている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食事後の声掛けや見守りで口腔ケアや義歯洗剤を使用している		

グループホームなごみ(ユニット1)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	生活状況表や一日の流れを作り排泄状況を管理しトイレ誘導をしている	各居室にトイレがあり、トイレでの排泄が出来るように支援をしています。失禁の多い方は排泄パターンを把握し早めに誘導することで失敗も減り自信にも繋がっています。職員はトイレの習慣や行動を察知し見守りを徹底してトイレで排泄でき自立支援に努めています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の方の排泄状況に応じて水分摂取や乳製品の取り入れをし下剤を服用されている方には、主治医と相談しながら服用管理している		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ご利用者の希望に出来るだけ合わせ無理強いせず午後からの入浴とさせてもらい声掛けに気をつけている	基本的に入浴は午後から準備しており、毎日や各日など希望に合わせて入浴を支援しています。拒否される利用者には無理には勧めず、タイミングや時間を見計らって言葉かけをしています。ゆず湯、個人の石鹸やシャンプーを用いるなど、入浴を楽しめるよう支援しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご利用者の個々のペースに合わせて休んでもらっている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	生活状況表にて服薬状況を把握し通院日誌や服薬内容のファイルに細かく記入している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事作りや配膳、洗濯たたみ等出来る事を個々の能力を発揮して頂ける声掛けをしている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節によって外出支援して買い物やドライブ等もしている	天気の良い日の中庭のウッドデッキで過ごす外気浴は日常的に行っています。季節的には初詣、花見、紅葉を見に行ったり、ドライブに出かける等、外出が楽しめるよう支援しています。またおやつや衣料品の買い物には出かけています。	日常的な生活の中での一人ひとりの希望に添った外出支援に向け工夫をされる事に期待します。

グループホームなごみ(ユニット1)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	管理困難な方は、買い物際、職員で管理させて頂いている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自ら本人の訴えがあった時は、ご家族や友人の方に電話をかけられる様に支援している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に応じた飾り付けや寒い時の室温調節、夏場の日光などには、よしずを立て、涼しさを感じてもらおうようにしている	広いフロアは季節の飾り付けがなされています。中庭から差し込む光のまぶしさの調整やテレビの音、食器の音等、刺激のない空間を工夫し注意を払っています。利用者の居心地の良い居場所を確保するための家具の配置がなされ生活感のある憩いの場となっています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	個々に居場所のいい所にソファを置いたり、ご利用者同士でくつろげる場所を工夫している		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居される時にご自分の手作りの物や気に入った物を持ち込み出来る事を伝えています	居室のタンスとベットは備え付けになっています。仏壇や写真が持ち込まれたり、趣味である手芸の編み物の作品が飾られています。テレビを見たり馴染みの椅子に座りラジカセでジャズを聴いて過す等、落ち着いた居心地の良い空間になっています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	必要な場所には手摺りを設置し段差をなくし安全で自立した生活を工夫しています		